

なつとりのいっく話

金沢医療センター公開講座

「話題の病気シリーズ」

～ちょっと聴いてみませんか～



「パーキンソン病に対する
新しい治療法について」

日時:平成 20 年 6 月 19 日

場所:地域医療研修センター

講師:赤池秀一先生(脳神経外科)





【パーキンソン病】

- ・ 人口 10 万に、50～60 人の発症確立。
- ・ 40～70 歳の発病が多い。
- ・ 原因は不明で、神経伝達に必要なドーパミンが出なくなることにより症状が進行する。
- ・ 症状

①筋のこわばり ②ふるえ ③歩行障害

* 治療法 *

① 薬物治療

- ・ 欠乏したドーパミンを直接補充する薬
- ・ ドーパミン放出を刺激する薬
- ・ ドーパミンに似た薬
- ・ ドーパミンの分解を遅らせて長く働かせる薬など



薬物治療の限界

- ・ 副作用である異常運動や幻覚の出現
- ・ 薬効がなくなり、すくみ足や前かがみ歩行の出現と進行
- ・ 症状の変動

手術治療

- ・ 固縮・歩行障害に対する
視床下核部への電気刺激植え込み手術
- ・ 手足の振るえに対する
視床部への電気刺激植え込み手術



電気刺激により症状が警戒する。
しかも、薬の減量ができるため副作用
がなくなる。

